

繁殖期調査

「繁殖期2023」を本土部の全区市町村で実施中

本土部の全自治体に1か所以上の調査地を設置しての調査(「繁殖期2023」)は、5月～6月にかけて、東は江戸川区の葛西臨海・海浜公園から、西は奥多摩町の雲取山系まで約70か所で生息・繁殖状況を調べています。調査にはボランティアで参加いただいています。今年の繁殖期には以下の調査も行っています。ぜひご協力ください。

1. フクロウ・アオバズクの鳴声は聞こえてきませんか

昨年末、フクロウ【写真】が皇居や赤坂御用地で繁殖していたことが、国立科学博物館から発表されました。フクロウは全国的にも繁殖分布が広がって、東京でも皇居だけでなく、「緑島(りょくとう)」と呼ばれる東京市街地の緑地で生息が記録されています。一方、アオバズクは、全国的には“復活”という声はなかなか聞こえてきませんが、ここ数年23区内では「繁殖」が記録されています。どちらも夜行性で見つけにくい鳥ですが、夕刻から夜間にかけて鳴声で確認できますので、気をつけてください。



緑島に生息するフクロウ 川内 博氏撮影

2. タカ・ハヤブサ・ミサゴなどの繁殖活動にご注目を

オオタカ・ツミ・チョウゲンボウといった猛禽が都内の各地で子育てをするような時代となっています。それに加えて、ハヤブサ・ノスリも徐々に街なかでの出現頻度が高くなり、さらに魚食性のミサゴ【写真】も都内で営巣する可能性が高くなっています。



魚をねらうミサゴ 川内 博氏撮影

3. サンショウクイの鳴声にご注意を

最近、従来からの夏鳥のサンショウクイとは違った別亜種のリュウキュウサンショウクイが、周年見られるようになってきました。繁殖期にはこの2亜種が同じ場所で見られることがあります。サンショウクイを見かけたときは、どちらの亜種か、姿や鳴声などで判別をお願いします。

※**ご注意ください**：猛禽類や希少種の繁殖に関する情報は、まず簡単な内容とご氏名・連絡先を事務局あてにメール・ファックス・手紙などでお知らせください。詳しい内容については、研究部からご連絡し、お伺いします。